「平和について考える」

南中学校　一年　横島　亜衣

「平和とは何でしょうか？」

平和事業推進委員長からの問いです。即、頭に浮かんだことは戦争をしないと言うこと。現在ではあたり前のように学校に通える、ごはんが食べられる、未来を考えられる、ぐっすり眠ることができる。広島を訪れているうちに、このようなことも頭に浮かんできました。

74年前はそうではなかった。日々警報に怯え、電気もこっそり点ける。食べ物も少なく、自由に遊ぶことさえ出来なかった。明日の自分の保障はない。

原子爆弾が落とされた広島は更にひどい惨状だった。原爆資料館で、熱風により溶けたお弁当箱、ボロボロに破けたシャツ、ヤケドをした方の痛々しい写真などを目の当たりにし、今年90歳になられた方に、原爆が落ちた瞬間や放射線被害、その後の家族の生々しい

20 × 20

話を伺っていたところ、当時にタイムスリップした錯覚に落ち入り、私の母は大丈夫だろうかと心配している自分がいた。怖かった。恐ろしかった。

今は、観光地として外国から訪れる方も多く、きれいに整備され、とてもにぎわっている町。しかし、この地には核の脅威にさらされた多くの無念や悲しみ、苦しみが詰まっている事を決して忘れてはならない。

74年が経ち、当時の事を語ることが出来る方も少なくなり、今回とても貴重な体験をさせて頂きました。これからの平和の為にも、広島で何が起こっていたのか、多くの人に知ってもらい、当時に想いをはせてほしいと思います。

20 × 20